丸山湿原群保全の会会報

（第 117 号）

発行日：平成 29 年 4 月 12 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

奇妙な春が続きます。冷春という言葉はありません（多分）が、気温がなかなか上がりません。こんな年に限っていっきに夏日が来るのかもしれません。

昨年は 3 月 28 日にタムシバ満開近し、と会報 101 号で書いています。タムシバはこの 1 週間で開花が始まり、満開へと突き進んでいます。昨年より約 2 週間遅いことになります。本日時点で 7 分咲きか？今年は裏年であまり咲かないかと思いましたが、なかなかの咲きっぷりです。タムシバについては、最後に解説します。気温変化が激しい日々です、体調にご注意！

（今住　4 月 11 日作成）

活動報告

★3 月 26 日（日）定期活動　5 名で活動（内新会員 2 名）

新しく 2 名の方の入会が決まりました。お二人とも何度か活動には参加されています。よろしくお願いします。さらなる会員拡大にご協力を。（内情は少し減少気味です・・・）

【湿原までの道～第 4 湿原】

前回、**道の途中（旧道）**の水たまりにカスミサンショウウオの卵のうがあったとのこと。確認しましたが見当たらず。幼体になり出て行ってしまったのか？はたまた卵のうごと流されてしまったのかは不明。とにかく見当たりませんでした。卵のうの袋だけ残っていることもあるのですが…。探していると、新会員さんが成体を見たことがないとのこと。では、では。**卵のうがある（あった）ところにオスが残っていることがよくあります。**隠れているかもと、半分水没した枯れ松をそっと動かしてみました。見事ヒット！あまり元気とは言えませんが、**尻尾の上を少しかじられた（誰が食べたんや？怪我は完治してます。）オスのカスミサンショウウオが見つかりました。**みんなでよーく観察し、元の場所に返しました。**産卵期は 3 月末には終了と思われます。1 月末から始まり 2 か月間。長い産卵期間です。**和歌山辺りでは 12 月ごろから産卵が始まるとか。何か生き残りのための戦略があるのでしょうね。産卵期が終わると成体は山へ。倒木の下や枯れ葉の下、少し湿った場所で生活します。**夏季に成体を見ることはまずありません。この時期にだけできる貴重な観察です。**

尻尾をかじられたカスミサンショウウオ

その後、**第 4 湿原下水路**に多数の卵のうを発見。前回の調査の時にも大量の卵のうがあったところです。また、房になった卵のうが 2 か所確認されました。**アカガエル類の卵塊はもう無く、オタマジャクシになり散っていったようです。カスミサンショウウオもアカガエル類も何匹が生き残り、命を繋いで行くのでしょうか。**全部成体になっても恐ろしいですが…

カスミサンショウウオ卵のう第 4 下水路

カスミサンショウウオ卵のう第 4 下水路

【作業】

放置された研究用の塩ビパイプ（第１湿原）と、第２湿原周囲の地下水位計を片付けました。塩ビパイプは他の湿原も含め、まだかなりの数が残っていると思われます。景観的にも見苦しいので、順次機会を見て撤去していきます。

塩ビの回収 1m以上刺さっている

地下水位計回収　結構高価なようだが

景観で話題になっているのが、両生類調査のルートセンサス用ロープ。これも見苦しいのではないかとの意見が出ています。杭が打ちこんであるので、調査の前後のみ張ってはどうかとの提案あり。検討したいと思います。

次回の活動日（４月 23 日（日））には、駐車場入り口付近から竹ポストにかけての歩道周辺のササ刈りを企画しています。手刈り用の鎌、刈り払い機（２台）と両方ありますので、可能なら一般の方もお誘いの上ご協力お願いします。午前中で片付くと思います。

★４月８日（土）定期活動

４名で活動（宝塚市広報職員１名を含む）　晴れるかと思ったら、雨が降りだしそうな曇り

定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去　宝塚市広報の取材

目的	市内	市外
丸山	9	10
ハイキング	5	5
その他	4	0

来場者数　計 33 人

（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度	PH
入口	9：55	19.6℃		
視点場	11：04	23.4℃		
第３湿原	10：37	【16.1℃】	28.3μS/cm	6.7
第１湿原	11：10	【18.3℃】	28.8μS/cm	6.9
第２湿原	11：42	【17.3℃】	31.2μS/cm	7.2.

【基礎調査に新兵器登場！】

１０年間活躍してくれた電気伝導度計。お歳のせいか少し反応が鈍く、また精度に少々疑問が出てきました。メーカーに問い合わせると、メンテナンスで若返りは可能との事でした。しかし、水温計の読み取りの際、使用者側の若返りが困難なためにデジタルで電気伝導度・水温・日時等が同時に計測・記録できる機器を投入しました。１０００個ログを記憶できます。使い方をぜひ覚えてください。

新電気伝導度計

加えて、PH の計測器も入りました。弱酸性と考えていたのですが、計測結果は雨のあとのせいか、ほぼ中性とでました。今後どうなるか楽しみです。これも使い方は簡単。

PH 計測計

【観察できた動植物】

昆虫はテングチョウ・キチョウ・オオゴキブリ（幼虫）。オオゴキブリは腐りかけた木の中から出てきました。宝塚市の広報担当の方が、生物多様性特集の取材で同行されていましたが、なぜかゴキブリと名前が付くだけで広報誌に写真は無理かもと…。多様性とは何ぞやと熱く語ってしまいました。森の掃除屋さんに失礼ではないか？しかもよく観察するとかわいい。あくまで主観ですが。７県で RDB に記載。オオゴキブリは今や希少種です！

オオゴキブリ（幼虫）

嫌いな人も、好きな人もいるのも多様性でしょう。それは問題なし！**単一化・画一化がとても危険だと私は思います。それを考える材料としても、生物多様性はとても重要かと。**また、説教臭くなりましたね。申し訳ありません。

広報誌に何がどう掲載されるか楽しみです。発行は５月とのこと、市内全域配布。市外の方は宝塚市の HP から閲覧できるそうです。

おっと、続き。植物は入り口付近に**クロモジ**の黄色い花。**タムシバ**は真下にいても気づきません。

シハイスミレ

タチツボスミレ

コバノミツバツツジ

遠くからは見つかるのに近くからは？が、見上げると見事に咲き誇っています。スミレは、**タチツボスミレ・シハイスミレ**があちこちに見られ、**ショウジョウバカマ**も湿原周囲で確認できました。しかし、まだ数は少ない。（クロモジ・スミレ・ショウジョウバカマの解説はバックナンバーの１０２号　HP 左上・緑のタグから閲覧できます。）**シュンラン・コバノミツバツツジ**も咲き始め。**トリガタハンショウヅルは花芽**をつけていました。４月下旬～５月上旬の開花と思われます。**モウセンゴケやウメバチソウ、キセルアザミなどの新芽**も多数確認できました。遅めの春がやってきています。どこで調整が入るのでしょうか？それもまた怖いような…

トリガタハンショウヅル花芽

【今回の植物】落葉小高木　タムシバ

山に咲き誇るタムシバ

花　付け根に花キャップが残る

落下した花キャップ

いい匂いに虫が集まる

あまり聞きなれない名前だと思う。**最近、正確な名前で西谷でも呼ばれるようになった。しかし、やっぱり興味のない人にはコブシで通っている。**モクレンの仲間。そういう意味ではコブシと同じ。タムシバは比較的標高の高い地域に分布するらしい。三田の街近くの山（町山）には確認できないようなので、標高２００m 辺りが境のようだ。（私見）１０メートル近い木の上部に、白くカザグルマのような花をつける。**多い年は山（主に北向き斜面）を白く染めるように咲く。まだ他の木々が芽吹く前なのでその白さは際立つ。**

花芽には、ネコヤナギの芽のように、長い毛に覆われた花キャップがかぶさっている。キャップを割るように花があらわれる。霜などの「凍て」から守るシステムのようだ。

コブシとの見分け方は、雌しべの形と、**花のすぐ下に葉がない**こと。花を間近に見ることはなかなか難しいので雌しべからの判断は無理。**西谷で見ることができるのはタムシバ**と思ってまず間違いはない。

名前の由来は葉を噛むと甘くて佳香があるのでカムシバ（噛む柴）となり、それがなまってタムシバとなったらしい。（諸説あり・田虫葉とも）花もよい匂いを放つ。

次回活動日　４月 23 日（日）５月 13 日（土）28 日（日）

６月総会を予定しています。６月 25 日（日）あたりで調整中。詳細については次回会報にて。

※また、奇妙な廃棄物がありました。紅花オイル２缶・片栗粉１袋・ポン酢１本。全て期限切れ！